

6.協議会の進め方について

ネットワークの考え方について

ネットワークについて、荒川太郎右衛門地区は「荒川ビオトープ」と「三つ又ビオトープ」の中間地点であることからこれらのネットワーク化を図るべきであるとの意見と、大麻生公園のような上流部とのネットワークを図るべきであるとの意見、さらには山を含めた上流域から下流域までも含めたネットワークを提案されている意見もありました。

現状認識の必要性について

荒川太郎右衛門地区の自然再生目標を検討する上で、以下の3点の情報を踏まえるべきとの意見を頂きました。

- ・動植物分布図の整理。
- ・土地利用の状況。
- ・歴史的変遷。

協議会として必要な活動について

協議会の活動として以下の意見がありました。

- ・周辺農家との距離を近づける活動が必要である。
- ・民有地を買い上げる基金の創設。
- ・利用者（ホンダエアポート、漁協）の代表者の参加要請。
- ・荒川太郎右衛門地区を一番よく知っている地元の方の知識、意見を聞く。
- ・（多くの人たちの理解と協力を得るために）旧流路の見学会、観察会等の開催。
- ・地元川田谷や川島周辺の人たちへの説明会、話し合い等の開催。

課題毎に分かれて検討を進める場合、どの分野に参加したいですか。

多くの分野への参加表明をいただきました。このうち、環境学習と民有地問題を含めた土地利用への参加希望が多く見られました。

- ・本川の水位を上げるための堰の構造について。
- ・環境学習。
- ・湿地の保全・再生。
- ・再生地決定への現地検証（上池周辺の実態の検証。）
- ・土地利用の見直しに関する部門。
- ・湿地保全の活動計画、活動方法の検討。
- ・河道の再生。
- ・本川と旧河道の位置付け。
- ・自然再生のハードの面（工事の施工方法、工事による自然環境への影響など）
- ・湿地保全、ごみ拾い、不法投棄防止対策の検討、実行等汗を流す役割。
- ・子供の遊べる川。
- ・乾燥化対策の検討。
- ・植物調査、野鳥生息調査等の現地調査。
- ・希少植物の保護。
- ・維持管理。
- ・中長期、未来への論議

太郎右衛門自然再生地の目的の明確化

旧流路の復元や湿地の再生ありきで議論すべきではなく、今回の事業目的が「荒川の豊かな自然」を取り戻すことであり、目的と手段（旧流路の復元や湿地の再生など）を混同しないよう議論すべきであるとの意見を頂きました。

（自然再生全体構想を考える上で）長期的視点で議論する必要がある。

長期的視点での議論の必要性を求める意見と、また短期、中期、長期で目標設定があっても良いのではないかととの意見がありました。

7.自然再生の対策手法、再生地の維持管理について

乾燥化対策についてのアイディア

乾燥化対策として様々なアイディアがありました。

- ・旧流路の浚渫をする。
- ・上流から荒川本川に土砂を供給し荒川本川の水面レベルを上げる。
- ・荒川本川に水中堰を作り本川の水面レベルを上げる。
- ・市野川や荒川からポンプアップして水を入れる。
- ・横堤に穴を開け、中池の水を上池に流す。

ゴミ問題について

現状ではゴミが非常に多く、ゴミの清掃や不法投棄の監視等が必要という意見も多くありました。

維持管理の必要性

現状の自然は残りにくいことから、何らかの人手をかけて維持管理することを考えるべきとの意見がありました。

太郎右衛門自然再生地の自然再生を実現するために自分に何ができるのか。

環境学習、自然観察会等多くの意見をいただきました。

- ・環境学習に参加したい。
- ・環境学習等の作業過程で、学校に呼びかける。
- ・啓蒙活動として自然観察会を開く。
- ・維持管理の必要性から植生管理を手伝える。
- ・散策道づくりや下草狩りなどのボランティア。
- ・清掃活動。
- ・不法投棄の監視。
- ・実際の現場で汗を流して協力したい。
- ・旧流路の生物のための勉強をしたい。
- ・みんなが力を合わせていくことが必要である。
- ・植生調査や野鳥調査等。
- ・ビオトープ造成計画立案と実行。

「6.協議会の進め方について」、「7.自然再生の対策手法、再生地の維持管理について」は、今後の協議会運営の参考とさせていただきます。